

はじめに

PF シンポジウム実行委員長 小林克己 (KEK-PF)

2003年3月18, 19日に第20回PFシンポジウムがKEK研究本館レクチャーホールで開催されました。今回のシンポジウムのプログラムは、ERLを中心とした将来計画が検討報告としてまとめられたので、それを大きく取り上げてユーザーの方にその内容を知っていただくことを念頭に置いて編成に当たりました。2日目の午前中に設けられた将来計画のセッションでは、現在稼働している数少ないERL施設の状況を原研の羽島さんに紹介していただきました。併せてその原理についても分かり易く紹介していただいたので、すばらしい光源であるとともに、実現するまでには多くの技術的課題が残っていることも理解できて、大変よかったと思っています。

また「PFの運営について」というセッションでは、「東大が中心となって進めてきたVSXリングが完成したらPFにはどのような影響があるか」ということから討論が始まり、KEK内にVSXリングが出来る可能性もふくめて皆さんの活発な発言があり、時間が足りないほどでした。これまでのPFシンポにおける「運営」のセッションとは全くことなる雰囲気で行進して私自身としては大変有意義な内容となったと思えました。また、参加者の皆さんのVSX計画に関する認識が大変深められたのではないのでしょうか。

今年の参加者は昨年と全く同じ131名でした。昨年はPFシンポの前日にPF20周年記念行事が行われたことが参加者のふえた理由の一つと思いましたが、今回もこのような多数の方が参加されたのは将来計画がまとまったことによって、ユーザーの方の元気も出てきたためではないのでしょうか？スタッフの一人として将来計画の実現にむけて努力したいと考えています。また一方で内部スタッフの参加者が少ないという指摘も受けました。運転停止中とは言え光源系のスタッフは多くの作業を抱えていることでもありますので、全員が参加することは出来ないと思います。しかしユーザーと討論できる数少ない機会ですので有効に利用すべきでしょう。次回はもっと多くのユーザー、スタッフが参加されることを期待しています。

最後になりましたが、シンポジウム開催に当たって協力して下さった外山さんはじめ放射光研究施設秘書の皆さま、三菱電機サービス、学生アルバイトの皆さまに感謝いたします。

第20回PFシンポジウム実行委員会：

猪子洋二(阪大)、加藤龍一(PF)、北島義典(PF)、木下豊彦(東大)、小林克己(PF)、高桑雄二(東北大)、高橋敏男(東大)、原田健太郎(PF)、平木雅彦(PF)  
(委員長、副委員長)